

第4回公共交通における事故による被害者等への支援のあり方検討会 議事概要

1. 日時

平成22年3月9日(火) 13:00~15:00

2. 場所

三菱総合研究所ビルヂング2階 セミナー室

3. 出席者

富田座長、垣本委員、高木委員、中島委員、下村委員、美谷島委員、関口委員、小滝委員、最勝寺委員、堀家委員代理棚橋氏、中桐委員、蝦名委員代理山本氏、渡邊委員代理若松氏、菅井委員、栗津委員、杉本委員、開出委員代理森田氏、福田委員代理川島氏

4. 議題

- (1) 被害者等へのヒアリング・アンケートについて(途中経過)
- (2) 支援者等へのヒアリングについて(途中経過)
- (3) 米国視察結果
- (4) 類似分野における支援について(犯罪、交通事故、災害)
- (5) これまでの調査から明らかになったニーズ等

5. 概要

○富田座長から、本日は議題が多いのでよろしくお願ひしたい旨、挨拶があった。

(1) 被害者等へのヒアリング・アンケートについて(途中経過)

○事務局から、JR西日本福知山線列車脱線事故の被害者等を対象にしたヒアリング及び日本航空123便墜落事故の被害者等を対象にしたアンケートの途中経過について説明があった。

(2) 支援者等へのヒアリングについて(途中経過)

○事務局から、JR西日本福知山線列車脱線事故の支援にあたった機関を対象にしたヒアリングの途中経過について説明があった。

(3) 米国視察結果

○事務局から、NTSB(国家運輸安全委員会)、米国赤十字社をはじめとする米国視察結果について説明があった。

(4) 類似分野における支援について(犯罪、交通事故、災害)

○事務局から、犯罪、交通事故、災害の分野における被害者支援の概要について説明があった。

(5) これまでの調査から明らかになったニーズ等

○事務局から、これまでの調査から明らかになったニーズ等の整理について説明があった。

○委員から以下の意見があった。

- ・被害者等の名簿について、事業者でもなく被害者側でもないどこかに一元化されているとよいのではないかと。また、マスコミに対して被害者等の名簿が公開されないように配慮してほしい。
- ・一般的に何を望んでいるかというニーズについての基本的な認識を整理してほしい。

- ・ 被害者等の詳細な意見を調査したこと自体が非常に貴重なことである。
- ・ 正確な情報提供や事故現場等でのケアがなされた上ではじめて専門的な心のケアが成り立つものであり、専門的な心のケアだけを単独で提供するのではなく、総合的な支援の中に位置付けるべきではないか。
- ・ 事故現場や遺体安置所に専門家を派遣するのも心のケアの一部ではないか。警察、消防、医療関係者に悲嘆や遺体への尊敬に関する教育がなされていないと、次の段階の心のケアがうまくいかなくなってしまう。
- ・ 事故現場や遺体確認等において常に心のケアに配慮された対応をすること、必要な人がすぐに心のケアを受けられるようにすること、支援関係者が心のケアに関する知識を身につけておくことが必要である。
- ・ NTSB の TDA では、被害者家族に対して状況の説明を毎日行っている。何が起きたかという説明も含めて、丁寧に被害者家族に説明することが大事ではないか。
- ・ 原因究明や情報提供がないと心のケアにならないので、これらも含めて大きな心のケアとしてとらえてほしい。

以上